

流れ山(応桑岩屑なだれ)

山体崩壊による流下物量の膨大さを学ぶ

■■■大地の活動■■■

浅間山北側の応桑に「流れ山」と呼ばれる地形があります。こんもりとした小山は安山岩質の岩塊と粒の細かい火砕物質が雑然とまじりあったもので、浅間火山の軽石流や降下軽石層、火山灰層でおおわれています。これは、黒斑火山が山体崩壊を起こして流れ下ったもので応桑岩屑なだれと呼ばれています。流れ山は岩屑なだれに含まれていた巨大な岩塊がこの地点で止まってできたもので、最も大きなものは東西300m、南北400m、比高40mにおよびます。



古墳のような形の「流れ山」



応桑岩屑なだれと孀恋軽石